



第139号
(復刊第64号)
令和5春彼岸

死こそ常態 生はいとしき蜃気楼と

さくら

茨木のり子

ことしも生きて
 さくらを見ています
 ひとは生涯に
 何回ぐらいさくらをみるのかしら
 ものごころつくのが十歳ぐらいなら
 どんなに多くても七十回ぐらい
 三十回 四十回のひともざら
 なんとという少なさだろう
 もっともっと多く見るような気がするの
 は祖先の視覚も
 まぎれこみ重なりあい霞だつせいでし
 ょうあでやかとも妖しとも不気味とも
 捉えかねる花のいろ
 さくらふぶきの下を ふららと歩けば
 一瞬名僧のごとくにわかるのです
 死こそ常態
 生はいとしき蜃気楼と

茨木のり子 大正15年大阪生まれ。現・東邦大学薬学部卒。24歳で結婚。この頃から詩を書き始め、27歳のとき詩人仲間と同人誌『權』（かい）を創刊。49歳で夫が先立ち、2年後代表作のひとつとなる『自分の感受性くらい』を世に出した。平成18年自宅で急逝、79才。生涯30を超える詩集等を出版、代表詩「私が一番きれいだったとき」は多くの国語教科書に採用されている。



春になると各地から桜の便りが届き、心が何となく華やいてきます。興徳寺の境内も花を樂しむ人、写真家の方などで今年も賑わうことと思います。

日蓮聖人のご遺文「重須殿女房御返事」の一節・・・さくらはをもしろき物 木の中よりさきいづ・・・

可憐で美しい桜の花があつて堅い木の中から生まれる、おもしろいものだ・・・この文の前に私たち人間は父母の精血が変じて人となり・・・とあり、美しい

蓮の花が泥沼に咲くことも譬えながら汚濁の中にこそ清浄なるものが生ずると説かれています。堅い木は欲や怒りといった私たちの煩惱、そして桜の花は私たちの仏心、誰もがこの二つを併せ持っている存在なのです。

日々の生活に疲れ、自分は何の価値もない人間だ、と落ち込むことがあるかもしれない、自分が花開く日など想像もできないかもしれない、でも冬が必ず春となるように自分の中の小さな仏の存在を信じ一日一日生きることでやがて心は開放されます。

日本人にとって桜は特別な存在のようです。臨終間際の方に「せめて来年の桜をみせてあげたい」と願ったりもしますがさてさて自分はこの先何回桜を見る事が出来るのか？ 少し悲しくもなりますが、でも魂のレベルでとらえてみれば、生まれる前から死んだあとの無限の時間の中で「生きている今」はまさに「いとしき蜃気楼」。だからこそ今年の桜を大いに楽しみましょう。

春から夏までの予定

3月9日(木曜日) 興徳寺51世 **松永要泰上人50回忌** 10:00~
優しくてお坊さんとしてもとても立派な方でした。



祈禱で救われた方もおられるかと思えます。

祥月命日に本堂にて法要を執り行います。生前お付き合いのあった方々
にお集まりいただき遺徳を偲びたいと思えます。平服でお越しください。

法要と墓参のみ。香典・供花はご辞退申し上げます。

3月21日(火曜日) **彼岸会** 10:00~ 法要と法話
お彼岸の法要です。ご家族・お友達 お誘いあわせてどうぞ。
法要の中でご先祖様の回向をさせていただきます。
(お塔婆は2千円です)。

3月24日(水曜日) **七面山登詣** 4:00 興徳寺を出発、戻るのは18時頃
まだ雪の残る七面山への日帰り登詣です。初めての方も お問い合わせください。

4月1日(土曜日) **花祭り** 12:30~ 法要。13:30~ ショー
第16回目の「花まつり」です。お釈迦様の誕生を祝い、仏さまのご縁に感謝する日。
4年ぶりに 甘茶・お抹茶の接待や、売店、石段50mを使つての書のパフォーマンス、
本堂前の特設舞台での邦楽演奏・「劇団うふふ」・「はる」…
コロナ対策を考慮したうえで皆で楽しみましょう。



「劇団 うふふ」の大型人形芝居、「ぶんぶく茶釜」
脚本、演出、人形制作・音楽まですべてオリジナル。
今回は「ぶんぶく茶釜」を新しい脚本・演出でお披露目します。
人と人形が織りなすおかしくて不思議な世界。
ご期待ください。



それから、福岡から「はる」がやって来ます。
コロナの前は「ハル」の名で毎回出演してくれ、この地でファン
もたくさんできたのですが残念なことにご主人のオオガタ・ミ
ツオさんが昨年9月に逝去されました。(胃癌・67才)
しかしながら奥様のはるさんが1人で音楽活動を続けてゆく
決心をされたので、初めてのソロコンサートをお願いしました。
どうぞ応援してあげてください。

興徳寺をきれいにする日 6月18日 と 7月23日 の 2回
朝7:00~9:00頃まで 草刈・草むしり・お掃除など、できるご奉仕を。男女年齢問わず。

しゃきょう しょうだいぎょう
写経・唱題行 毎月 第4日曜日 15時より「写経」 16時より「唱題行」
3月26日・4月23日・5月28日・6月25日・7月23日

静かな雰囲気の中でお経を写し、お題目を唱えます。深い呼吸と精神統一によって、
気持ちもスッキリ。 お友達・お仲間を誘って是非、参加してみてください。

大寒の法華太鼓のいざいざし
 倭子

1月20日「大寒」から2月3日「節分」まで『寒行』が行われました。コロナの影響でここ2年間はお坊さんたちだけで歩きましたが今年は希望者を対象に一般の方の参加を呼びかけたところ毎晩10〜20名ほどの方が一緒に夜の道を歩いてくれました。今年で18年目となりました。かり村の風物詩となりました。



15日間皆勤賞が5名、立派！

なお戸口にて頂きました浄財は今年も柚野小学校に10万円、上野小学校に5万円、読み聞かせの会に3万円を寄付しました。

ラオスからのお客様

2月22日、12名のラオス人の訪問がありました。

柚野を拠点とする『一般社団法人 エコロジック(新谷雅徳代表)』は3年前よりJICAのパートナーとしてラオス国の世界遺産都市ルアンパバーンで現地ガイドの養成に携わっており、今回はそのガイドトレーナーを日本に招きエコツアーの実際を研修してもらおうという企画の一環でした。幸い副住職の泰潤が身延山大学在学中にラオスで1ヶ月仏像修復の仕事に携わったことがあり、話も弾みすぐに打ち解けることができました。暮らしの中に仏教が融け込んでいる彼らに日本のお寺はとても興味深いものであったようで質問が途絶えませんでした。皆さんがとても喜んでくれたそうで、泰潤にとっても仏教を英語で紹介するよい機会となり、少しでもお役に立てた事、何よりでした。



しっかり正座して話を聴く姿に感心！



河津桜と富士山、いい日で何より。

住職のひとりごと

●新形コロナウイルスが5月8日より季節性インフルエンザ等と同じ「5類」に移行すると発表があり、マスクも個人の判断に委ねる、こととなりました。3年間に亘る行動制限にようやく前進の兆しです。そこでお寺としても引き続き感染対策には配慮しながらも中止していたイベント等を復活させてゆきます。その手始めとして『花まつり』をかつての内容で実施すること

とにしました。2ページの予定欄に書きましたが毎年、福岡から駆けつけてくれた「ハル」の演奏をもう聴けないのは本当に残念なことですが、奥様の「はる」さんがこれからも音楽の道を進んで行く事を決められたのでそのソロコンサートを皆で応援してあげたいと思います。どうぞ楽しみにご参加ください。

《お知らせ》護持会費の封筒を同封してあります。墓地契約者は一〇口(2千円/年)、その他の方は二〜三口以上でお願い

春のお経廻りの予定

- 3月2日 稲子・長貫・羽鮒・大久保
- 3日 北山・上井出・山宮・粟倉・舟久保町・村山・宮原・富士見ヶ丘
- 4日 (土) 万野原新田・大岩・小泉
- 5日 (日) 富士
- 6日 精進川・下条 (7日午前中まで)
- 7~9日 下条・青木・馬見塚・外神・穂波町・淀師・淀川町・中島町
- 10日 大宮町・宮町・西町・貴船町・泉町
- 11日 (土) 三島・清水・静岡・由比・柚野・希望者
- 12日 (日) 内房・大久保・柚野・他
- 13日 豊町・野中・星山・源道寺・田中町・大中里~柚野
- 14日~ 柚野

*当方の都合で日付変更もあります。
*変更を希望する方、ご連絡ください。

します。可能な方は現在の口数を増やしてください。また護持会費の使途および残金等につきましては同封の『護持会報告』をごらんください。



●「一食一円アシスト募金」ですが、昨年より一円硬貨は受け付けられない旨連絡したところ、やはり協力者は減って計51名でした。それでも1人の方が5万円近くを寄付してくれたおかげで14万3千8百27円、ただし硬貨の手数料を8千8百円引かれました。実は昨年亡くなられた檀家さんが生前大きな瓶にコ

タイゼン・ケイタイ; 090-2180-8591

ツコツと貯めてくれた一円硬貨7千数百枚、これを送るための手数料が8千8百円でした。金銭的な面だけを考えれば善意がマイナスになる、(お金を)捨てた方がマシという何とも大きな矛盾ですが、故人の尊い行いを頂戴いたしました。引き続き募金は続けますが、とりあえず硬貨については50円以上のみ受け付けるということでご了承ください。

「一円硬貨は受け付けられません」としても心苦しいことではあります。ご理解の上ご協力をお願いいたします。募金の名称も変更すべきですね。

●桜の季節、上の駐車場は閉鎖し、見学者に開放しますが、檀家さん、お寺に御用の方はご遠慮なくご利用ください。また本堂脇、東屋の横にも駐車スペースがありますのでそちらもどうぞ。●今回のイラスト、富士市の西川千恵子さん、「寒行」の写真は高瀬幹雄さんです

【泰然記】